

年頭所感

とちぎの創生 ～栃木県の活性化、人づくりを目指して～



筆頭代表理事

小林 辰興

新年あけましておめでとうございます。
皆様には、お健やかに新しい年をお迎え
になられたこととお慶び申し上げます。

年の初めに当たり、栃木県経済同友会の
筆頭代表理事として、新年のご挨拶を申し
述べたいと思います。

(2016年の回顧)

2016年を振り返ってみますと、先ず思い
出されますのが、夏の全国高校野球選手権
大会におきまして作新学院が54年ぶりに2
度目の優勝を果たしたことであります。

そして、同じ8月にオリンピックが開催
され、日本チームは過去最多のメダルを獲
得しました。なかでも、本県出身の萩野選
手は金メダル第1号に輝き、その後のメダ
ル獲得に弾みをつけ、3年後の東京オリ
ンピックに大きな期待をつなぐ結果を残して
くれました。

東京オリンピックは世界中が注目するビ
ックイベントですので、日本のすばらしさ、
そして本県の魅力を発信する良い機会にし
たいものだとつくづく思っております。

さて、昨年もまた色々な自然災害が各地
で発生し、多くの方々が被害を受けました。

1月には数十年ぶりの大寒波に見舞われ、
大雪により多数の被害が出ましたし、4月
には熊本県を中心に震度7の地震が発生し、
家屋の倒壊やがけ崩れなど甚大な被害が発
生し、生産活動にも大きな影響が出ました。
公益社団法人経済同友会から募金の呼びか

けがあり、当会としては、被害にあわれた
方々が一日も早く生活再建できるようにと
の思いから協力させていただくこととし、
併せて日本赤十字社栃木県支部長である栃
木県知事にも義援金をお預けいたしました。

8月には台風の影響により、農作物に大
きな被害が発生し、その後野菜類の高騰が
続き、今も個人消費に影響が出ています。

今年こそ、安定した気候の下で、穏やか
な1年が送れるよう祈ってやみません。

次に世界情勢に目を転じますと、イギリ
スのEU離脱やアメリカの次期大統領に
「トランプ氏」が選ばれたこと等、予期せ
ぬ事態が次々と起こりました。また、依然
として世界各地で地域紛争やテロが頻発し
ており、世界経済に大きな影響を及ぼして
います。そして、日本経済もこれら世界情
勢に大きく影響された1年であったと感じ
ております。

1月には円高、原油安等により株価は乱
高下し、6月には一時15,000円を下回る状
況になりましたが、年末には、次期アメリ
カ大統領の経済政策への期待から、一転し
て市場では円安、株高へと激しい動きを見
せました。

いずれにいたしましても世界の市場を相
手に奮闘する皆様方にとっては、厳しい対
応を迫られた年であったのではないでしょ
うか。

(2017年)

国においては、ニッポン一億総活躍プランが閣議決定されましたが、成長と分配の好循環のメカニズムが提示され、GDP600兆円を実現することにより、子育てや社会保障を強化し、希望出生率1.8、介護離職ゼロを達成するという「究極の成長戦略」を定め、その目標実現のために働き方改革と生産性向上に取り組んでいく必要があるとされています。

そして具体化を進めるに当たって「働き方改革実現会議」が設けられ、同一労働同一賃金など9項目について実行計画の策定等の審議がなされていますので、会員の皆様とともに、この動きを注視して参りたいと思っています。

栃木県においては、一昨年「とちぎ創生15戦略」が策定され、各戦略を実施することにより人口減少に歯止めをかけるとともに、将来にわたり地域の活力を維持するため、平成72年（2060年）に150万人以上の総人口を確保する、という目標が設定されました。

また、昨年2月には、県政の基本指針となる栃木県重点戦略「とちぎ元気プラン」が策定されました。

これらの戦略の策定に当たっては、当会会員が委員として参画し、当会としての意見も反映していただきましたので、実行に当たっては、できる限りの協力をして参りたいと考えております。

さて、「とちぎの創生」を共通テーマに活動している委員会活動に関してですが、現在、約2年間の調査研究期間のまとめの時期となっています。いくつかの委員会では、栃木県知事をはじめ各関係機関の代表者に提言していくことを予定していますが、具体化されてこそその提言でありますので、具体的な施策に繋がるよう、提言後も注視していく必要があると考えています。

さらに、4月から新委員長の下で始まる各委員会の調査研究活動についてですが、とちぎの創生のため「栃木県の活性化」や「人づくり」という2つの要素を踏まえてテーマを設定し調査研究に取り組んでいただくこととしました。

本県においても生産年齢人口の減少が進行する中、働き方改革や生産性向上等に取り組む必要がありますが、栃木県ならではの産業構造・環境・風土等に考慮してアプローチしていくことにより、とちぎの創生に確実に繋がるものと考え、テーマ等の設定を行ったところであります。背景等について、ここで若干説明をさせていただきます。

まず、本県産業の振興策について研究する産業政策委員会ですが、国の提唱する働き方改革に呼応して、長時間労働の是正といった現象的な課題の克服からさらに歩を進めて、人財の活用・雇用戦略を踏まえ、生産性向上、ひいては本県経済の発展にどう繋げていくのかを調査研究するため「栃木版 働き方改革」をテーマとしていただくことにしました。

また、全国有数の観光地を有する本県は、全国的に外国人観光客の宿泊数が大きく伸びる中、低調に推移しています。今後東京オリンピック・パラリンピックの開催等により増加する観光客を如何に取り込むか、そのためには、観光振興の担い手の育成や活用等についてどう取り組んでいくのかは大きな課題でありますので、地域振興委員会のテーマは「観光立県に向けた仕組みの構築」と決定させていただきました。

そして、経営問題委員会におきましては、グローバル化が進む市場の多様なニーズに対応できる人財の確保と育成は、企業における最大の課題のひとつでありますので、「競争力強化のためのダイバーシティの実現」をテーマとして研究いただきます。

国際化推進委員会におきましては、県及び大学コンソーシアムとちぎと連携しながら留学制度の創設に取り組んでいただいたところですが、今後の制度の運営と、グローバル人財の本県への定着については、未だ課題として残されていますので、引き続き「グローバル人財の育成」をテーマとして研究いただく考えです。

さらに、社会貢献活動推進委員会では、次世代を担う若者へのキャリア教育、その実践の在り方等について、関係機関と連携しながら実践・検証していくことを目指していただくため、「栃木県の次代を担う人財の育成」をテーマと決めました。

昨今、人口減少を背景に空き家の数が年々増加傾向にあり、まちの空洞化や治安の悪化等、空き家によって引き起こされる問題が大きな社会問題とされていますが、一方で、空き家は未活用の資源として捉えることもでき、新たな活用方法等を見出すことで、地域活性化の切り札とすることもできるのではないかと考えています。そこで、社会問題委員会では「空き家問題対策」をテーマとして研究いただくこととしました。

また、人口減少により地域経済の疲弊が進み、厳しい財政制約の下での行政サービスの在り方が問われていますが、一方で、道路・上下水道・学校等の社会資本の老朽化が問題となっています。そこで、地方財政の健全化や持続発展可能な地域社会確立のための一つの策として、民間活力の積極的な導入について研究いただこうと、行財政改革委員会のテーマは「行財政改革と公民連携の在り方」と決めました。

未来経営研究会では、企業の寿命は30年という説がある中、100年企業を目指してリーダーとしての資質等について研究いただくため、「革新的経営の探求」をテーマとしていただくことを考えています。

さらに、栃木交流研究会では、去年は、

郷土愛の醸成のためのテレビ番組「同友酒場」の制作に携わっていただきましたが、引き続き本県の歴史や文化、魅力あふれる観光資源などについて調査し、県民には気が付かない地域の魅力について、様々な機会を捉えて情報発信していただきたいと思います。

(創立30周年記念事業について)

最後に、来年に実施する創立30周年記念事業に関してですが、これまでの周年事業に加え、特に今回は全国経済同友会セミナーを誘致して開催することとしたのは皆様ご案内のとおりであります。そして、今年はその準備作業が本格化する年となります。この事業は、戦後の日本の発展を支え、牽引して来た企業の経営者の方々等がここ栃木に一堂に会し、さらなる日本の発展について議論を行う一大イベントであり、東京を除く関東では初めての開催となるものです。

全国から集う経営者の方々には、十分にご議論いただける環境を提供していくとともに、栃木の魅力を存分に感じていただけるよう万全に準備して参りたいと考えております。

そのためには、会員の力を結集して臨む必要がありますので、何卒協力をよろしく願います。

年の初めにあたり、私の所感を申し上げましたが、2017年が穏やかな1年になることを願いますとともに、皆様にとりまして、健やかで幸多き年となりますことを心からお祈り申し上げまして、年頭のごあいさつといたします。



新年を迎えて

代表理事 **中津 正修**

新年明けましておめでとうございます。

平成29年の年頭にあたり、公益社団法人栃木県経済同友会の代表理事として、本年の抱負を述べさせていただきます。

昨年を振り返りますと、東京株式市場取引初日（大発会）で日経平均株価が582円安で始まり以降6営業日連続下落となりました。そして1月下旬には日銀が「マイナス金利」の導入を決定するなど波乱なスタートとなりました。

一方、世界に目を向けますと、6月にはイギリスの欧州連合（EU）離脱、11月には会員の皆様も記憶に新しい米国次期大統領選挙でのトランプ候補の勝利と予想外の出来事が続きました。

政府は、アベノミクス新3本の矢を柱として国をあげてデフレ脱却、景気回復に取り組んでいますが、消費支出はマイナスが続くなど依然として厳しい状況にあります。

そのような中、有効求人倍率、実質賃金などの指標では改善が見られ、ゆっくりではありますが、着実に景気回復に向かっていていると思います。

また、昨年は当会においても大がかりなイベントがありました。先ずは、6月に開催した「5経済同友会教育担当委員会交流会」です。これは、群馬・中部・新潟・富山の経済同友会と当会の教育担当委員会が毎年持ち回りで開催しており、昨年は本県で開催しました。

4経済同友会（群馬・中部・新潟・富山）、県教育委員会、宇都宮大学等多方面の方々総勢68名（含む当会会員）参加され、アジア学院視察、情報交換会での各地同友会の取組の発表やシンポジウム等、大変有意義な交流会となりました。

さらには、10月に開催した「第2回4経済

同友会交流会」です。これは、埼玉・新潟・群馬と栃木県の4つの経済同友会の交流会として、平成27年度新潟で初めて開催され、昨年、本県で第2回目を行いました。総勢93名参加と当会がホスト役となるイベントでは過去最大規模だったと思います。2日間に渡る交流会の1日目は、企業視察として当会会員企業で包餡機械製造のパイオニアのレオン自動機(株)視察、その後の懇談会では、県の担当者による、ものづくりに対する県の施策等の説明、各地同友会の取組の発表等が行われました。懇親会では、宇都宮餃子、宇都宮カクテル、ジャズ等を披露し地元をアピールしました。2日目はエクスカッションとして、本県が誇る世界遺産日光輪王寺・東照宮を視察するなど大変有意義な交流会となりました。

いずれのイベントも、平成30年に本県にて開催される「全国経済同友会セミナー」を見据え、会員の皆様には準備の段階から当日の裏方の仕事まで参加していただきました。お陰様で連携の確認や全国経済同友会セミナー開催に向けた課題等を認識することができました。大変有難うございました。

本年は、同友会の柱である委員会事業において、各委員会・研究会等が2年間に渡り積み重ねてきた調査研究活動の成果をまとめる年であります。また、4月からは新たな体制のもとで活動がスタートする年でもあります。前述の「全国経済同友会セミナー」開催に向けた準備もいよいよ本格化するなど、忙しい年になると思いますが、会員の皆様の英知とバイタリティをもって取り組んで行きたいと思っております。

終わりに会員の皆様の今年1年の御健勝と御多幸を祈念するとともに、本年も同友会活動に対しての深い御理解と御協力をお願い申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。



新年の抱負

産業政策委員会
委員長 板橋 信行

新年あけましておめでとうございます。

穏やかな天候で幕をあげた2016年も3が日を過ぎる頃から一転して波乱の一年になりました。市場は年初からの円高・株安傾向、原油安や日銀のマイナス金利導入等でその流れは一段と加速しました。4月の熊本地震を始め幾つかの災害が発生し、被災者の皆様にはあらためてお見舞い申し上げます。5月にはサミット及びオバマ大統領の広島訪問、6月のイギリスEU離脱。7月には小池新都知事が誕生しましたが、豊洲・オリンピック等新たな懸案も生じています。そして8月のリオオリンピックを経て、11月のアメリカ大統領選も驚きの結果となりました。一連の出来事は一見繋がりがなさそうですが、変化の流れにそったものとも考えられます。そういう意味では、気候変動も含めて、グローバル化・IT化・資本主義・民主主義という我々の生き方を今一度立止って考える機会なのかも知れません。不安定な状況の中、オリンピックまでの3年間は基本的には上昇が見込まれ、日本にとっても勝負の時です。「働き方改革」を含めいい社会を目指したイノベーションを続けて世界に貢献していくこと。日本の果たすべき役割はたくさんあります。

産業政策委員会のテーマである「女性の活躍推進」も最終年を迎えます。この4年間で知り合えた素晴らしい人たちに感謝申し上げると同時に、研究・体験した事や産業界の声を委員会でもとめ、提言等に繋げていきたいと思えます。「男も女も輝ける栃木」の実現を目指して、委員会メンバー一同、皆様とともに活動していければと思えますので、今年もよろしく願い申し上げます。



新年に寄せて

地域振興委員会
委員長 村上 龍也

新年あけましておめでとうございます。

今年度の地域振興委員会は、魅力ある地域の創造～「住んでよし、訪れてよし」のとちぎ創造への仕組み作り～のテーマのもと、提言書の取りまとめに入っております。「トチギ未来の夢計画」と銘打って、大胆でワクワクしてくような経済界からの情報発信です。

委員会の皆様には、毎回たくさんのご出席を賜り、積極的なご意見を頂戴して、心から御礼を申し上げます。委員会内部でも計画について意見が分かれ3時間も議論を尽くすこともありましたが、それでも委員会として想いを一つにして活動できていると自負しております。未熟な委員長の強引な委員会進行にもご支援・ご賛同を頂き、委員会の皆様の温かい眼差しにいつも心癒されております。

今、地方を取り巻く環境は想像以上に厳しく地域経済も脆弱化しております。地方創生の声も虚しく、私たちは誰かを頼らず自ら動き出していかなければなりません。その牽引は経済界が担うべきと考えますし、(公社)栃木県経済同友会の重要な役割だと考えます。

私たちはそれだけの体力を培っていかねばなりません。「トチギ未来の夢計画」は動き出すことで経済基盤の再整備を進め、修正しながら前へ進もうとする栃木県経済界からの大切な一石を投じる機会だと思います。各方面からご批判を頂戴することも覚悟して真摯に向き合い、対応していこうと考えます。

地域振興委員会の皆様、(公社)栃木県経済同友会の皆様には、引き続き公私ともにご指導いただきますようよろしくお願いすると共に皆様にとって素晴らしい輝く一年でありますよう御祈念申し上げます。



新年の抱負

経営問題委員会
委員長 吉原 正博

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

経営問題委員会では、「中小企業間の連携強化」をテーマに、調査研究を行っております。グローバルな産業構造の変化、また国内では少子高齢、人口減少といった社会構造の変化が進む中、中小企業に求められる役割も日々変化しています。経営資源に限りのある中小企業にとって、単独の事業活動では得られない相乗効果を生み出す事を目的とした同業・異業種間の連携は、顧客ニーズに対応できる体制を構築し、新たなビジネスの機会に繋がるとともに、事業の継続・発展にも寄与するものと考えます。2年目の活動では、栃木県内企業の連携事業、そして京都・大阪において連携事例についての調査研究をしました。企業間連携の効果として、販路・受注拡大、新製品開発、ノウハウ獲得など具体的な成果、そして取り組む上での課題や成功への対策などのヒントを学ぶことができました。

さて、インターネットの普及、クラウド技術の発展により、シーズとニーズのマッチングが、今後急速に増加していくものと予想され、企業間連携もより身近になるものと感じています。また、建設業・製造業である当社にとっても、今後の新事業展開や、建設業就業者の高齢化、技術者不足、技術の伝承などの課題を克服していくには、自社の経営資源のみではなく、多面的な連携を積極的に活用していくことが重要なテーマであると考えます。今年度も委員会活動を通して、多くのことを学び、成長できる1年を目指して参りたいと存じますので、皆様方のご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



新年の抱負

社会問題委員会
委員長 上野 勝弘

新年明けましておめでとうございます。

栃木県の「人口ビジョン」によると、本県の人口は、2060年に現状推移で120万人を下回り、「とちぎ創生15戦略」の実施により150万人以上を確保することとしていることから、人口減少問題は想像以上に喫緊の課題であると言えます。

こうした中、当委員会では「少子化対策～若者が住みたくなる魅力ある栃木を目指して～」をテーマに、若者が「地方回帰」することが人口減少対策の一步と捉え、2ヵ年に渡り、調査研究に取り組んできました。

これまでの調査研究を通じて、本県の人口動態の特徴の一つに若年女性（20～24歳）の流出が顕著であることがわかりました。そこで焦点を「女性」に絞り、本県進学者の多い明治大学就職キャリア支援部や栃木県育英会学生寮の女子学生達との意見交換等々を直接的に実施し、女子学生達の就職に関する考えに関する調査を行いました。また、若者のUターン就職を促すための先進事例として静岡市を訪問し、地元企業への就職者の通学費の一部を負担する「新幹線通学費貸与事業」について視察を行いました。

これまでの調査で見えてきたことは、首都圏に進学した本県の女性達は、潜在的に地元に戻って生活することを望んでいるが、就活時点で地元企業の情報が不足している状況にありました。一方で、地元企業は優秀な人材の確保に悩んでいる状況にあります。そこで当委員会では、このミスマッチを解消する一助となることを目的に、現在「提言書」の取りまとめを進めています。

最後に、今年も引き続き、会員の皆様の御指導、御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

国際化推進委員会
委員長 **益子 博美**

新年明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

当委員会では、昨年から引き続き「グローバル人財の育成～若者にチャレンジ精神を～」をテーマに活動を行っております。

「トビタテ！留学JAPAN」への支援も2年目を迎え、昨年各国へ留学した学生たちが全員元気に帰国し、他の学生達に夢に向かう大切さを語り始めています。また、新たな未来に夢いっぱい若者たちの夢の後押しをしました。

本年1月19日に留学した全学生と福田知事にもご参加いただき、留学等の成果報告会を開催いたします。とても楽しみにしております。

また、大学コンソーシアムとちぎへの協力事業としまして、「国際キャリア開発プログラム」での引き続き分科会講師派遣やチラシ及び教材等の協賛を行い、委員の方にはオブザーバーとして参加していただき、大学生達と有意義な時間を共有しました。

先進地視察では、全ての授業を英語で行い、就職率も100%の「国際教養大学」に行きました。鈴木学長が栃木県ご出身ということもあり、とても親しくお話しをいただき、視察も充実したものになりました。

国際化推進委員会では、これまで以上に行政や大学等とも連携を密にして積極的に活動してまいりますので、本年もご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、栃木県経済同友会の益々の活性化、会員企業様の益々のご繁栄、会員様のご多幸とご健康をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年の抱負

社会貢献活動推進委員会
委員長 **大西 盛明**

新年明けましておめでとうございます。

この度、生方前委員長の後任で、新しく委員長になりました大西でございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、当委員会では、社会の役に立つ諸行事を行ってまいりましたが、本年度まで10年間継続してまいりました「少子高齢者対策・障がい者福祉を推進するNPO法人及びボランティア団体への支援助成」活動が、惜しまれつつ役割を果たしたとして、終了することになりました。長年のご支援ご理解に感謝を申し上げます。今後、先輩方より受け継いできた実績をまとめて、行政等へ提言をまとめてまいりたいと考えます。また、これに代わる新しい活動を会員各位と本年は模索してまいります。また、当会では「栃木県の次世代を担う人材の育成～キャリア教育の支援～」をテーマに活動を行っています。平成25年度から開始した県内中学校、高等学校への講師派遣事業も、各学校からの要望も増えてまいり定着化してまいりました。「将来を担う子供たちの為」社会の第一線で活躍中の会員経営者の皆様のご理解とご協力をえながら、県教育委員会との連携を密にとり、積極的に推進してまいります。

更に、東日本大震災以来、近年は日本列島の至る所で自然災害が頻発しており、我が栃木県も例外ではありません。これらに対処すべく、県とも連携し、災害時における支援協定事業も推進してまいります。

本年も会員各位の更なるご健勝とご多幸を祈りつつ、より積極的な参加とご指導ご協力をお願い申し上げ新年の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



新年の抱負

行財政改革委員会
委員長 **伊沢 正吉**

会員の皆様には、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

行財政改革委員会は2年間「社会環境の変化と地方自治体～人口減少に伴う地方創生の方向性～」をテーマに活動してまいりました。

特に昨年は、政府の地方創生の取組に対し、平成26年10月に栃木県が策定した「とちぎ創生15（いちご）戦略」をより効率的に実施するため、ICTの戦略的な利活用を軸とした提言書を取りまとめる方向で大変有意義な活動を展開することができました。

7月には、先進地事例としてICT政策では全国をリードする京都府の視察を行いました。情報政策統括監（CIO）の講義を中心に、ICT政策に至った経緯や組織体制、取組内容、その効果などについて意見交換を行いました。京都府におけるICT政策は想像以上であり、府民の生活はもとより、京都府を訪れる観光客に対しても十分なサービスが提供できるよう最先端のICTの活用にも取り組んでいて、ICTの利活用の重要さを再認識しました。

また、提言書の取りまとめにあたり、栃木県との連携も重要であることから、関係部署（行政改革推進室、情報システム課等）とも都度、情報交換を行い、栃木県の方向性やICT政策の取組状況等を把握しました。

今後は県に対し速やかに提言書を提出するとともに、この提言書により「とちぎ創生15（いちご）戦略」が効果的に実施され、栃木県の創生につながれば幸いです。

年頭にあたり、これまで以上のご指導、ご支援を賜りますよう申し上げますとともに、会員の皆様の本年の益々のご健勝とご活躍を祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年の抱負

地域活性化支援実行委員会
委員長 **酒井 誠**

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

当委員会のテーマ「若い力で栃木を元気に」にて、栃木県内4つのプロスポーツチームとの交流、協議を進めてまいりました我が委員会の活動も今年度で終了を迎えます。前任の関委員長の強い意志を受け継ぎ「地元のチームや選手を応援しよう！」という意識を高め、プロスポーツを通し、地域が盛り上がるような仕組みを検証、そして実証出来た年度だったと思っております。

昨年は栃木県の5つのプロスポーツに支援しながら地域活性化に貢献し、昨年の7月には3人制バスケットボール、FIBA 3×3 ワールドツアーを宇都宮二荒山神社、バンバ広場にて開催し、1千人を超える入場者を集め、入場制限がかかるほど賑わいました。また12月には全日本シクロクロス選手権大会が宇都宮ロマンチック村で行われ、過去最高の2万4千人もの観客を集めることができました。

今年3月には栃木県全域にて、初開催となる「ツール・ド・とちぎ」のステージレースとなり3日間開催されます。国内では久しぶりに本格的な自転車ラインレースということで関係者、地域に注目されています。

“地域のスポーツ”をエンターテインメント化させ、スポーツを通じた地域活性化を促進させ、未来に繋がると自負しながら幕引きしたいと思っております。

最後に、会員皆様のご多幸とご健康をご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年の抱負

未来経営研究会
代表世話人 **郡司 祐一**

栃木県経済同友会の会員並びに事務局の皆様、新しい年をお迎えし、謹んでお慶び申し上げます。昨年同様、本年も変わらぬお付き合いの程、よろしくお願い申し上げます。

昨年は、未来経営研究会に多くの会員の方々にご参加いただき、誠にありがとうございました。おかげ様で、2回の総会、並びに、台湾、福島、山梨への視察研修旅行を実行する事ができ、多くの学びと会員相互の親睦を深めることが出来ました。

同友会の活動に参加する度に、同友会に所属する皆様にお会いし時間を共有することで、経営者として本当に多くの気づきと学びを与えていただいていると実感いたして居ります。心より感謝申し上げます。

今年は、3月末に私の代表世話人の任期終了に伴い、平野一昭氏に代表を交代致します。新しい平野代表には引き続き未来経営研究会を牽引していただき、誠に残念ながら私が遂行しきれなかった、新入会員の同友会への積極的参加を促す活動を、是非とも成し遂げてもらいたいと思います。私も代表世話人として最後の務めである2月の海外研修を成功させるよう尽力いたす所存です。また、4月以降も、平成30年栃木県開催の全国経済同友会セミナーの大成功に向けて、実行委員として藤井実行委員長を盛り立てて参りたいと存じます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



新年の抱負

栃木交流研究会
会長 **板倉 豊**

新年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

栃木県経済同友会栃木交流研究会では、現在会員数50社、主として県外に本社を置く企業の方々によって「栃木の歴史と文化に触れる」をテーマに調査・研究を行っております。

栃木県は、鬼怒川・那須・塩原といった有名温泉地を抱え、日光国立公園をはじめとする四季折々の豊かで美しい自然や東照宮、輪王寺に代表される数々の歴史的文化財を抱える日本有数の観光地であります。

また、産業に於いても、農業産出額は全国第9位、製造品出荷額等は全国第13位など全国有数の産業県でもあります。特に、自動車や航空宇宙などの最先端技術に関しては、県民に知られていない高い技術力を持つ中小企業が多数あります。昨年、研究会で視察を行いました菊池歯車株式会社様などは、その技術力は世界に高く評価されております。

栃木県でも人口減少・少子高齢化が進む中、1人の定住人口減により約121万円の消費額が減ると言われております。観光産業だけで換算すると、それを補うには外国人観光客で約10人、1泊2日の観光客で22人、日帰り観光客で約88人とされています。

今年度、会員皆様による栃木県の歴史・文化・技術力といった様々な魅力発信により、多くの県内外の方々に栃木県内を周遊していただけるよう努める次第です。また、会員相互の親睦を図ることに努める次第です。

引き続き会員皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

会 員



羽ばたく栃木の力に！

株式会社三井住友銀行
北関東法人営業第二部
部 長 荒井 隆志

新年あけましておめでとうございます。

昨年1年間のご愛顧に、心より御礼申し上げます。

さて三井住友銀行北関東法人営業第二部は、前身の太陽神戸銀行小山支店が昭和50年3月に開店してからこの春で丸42年。栃木県内での弊行唯一の拠点として、人間で言えば円熟期に差し掛かってきた年頃です。開店当時はまだ東北新幹線も未開通で、栃木県民の方々の人口が170万人弱の時代でした。

昨年は萩野選手、海老沼選手、高藤選手をはじめとするリオでの県出身選手の活躍や、作新学院の甲子園制覇等々、栃木県勢の活躍が目立った年でしたね。また11月には知事選・宇都宮市長選もあり、栃木県にとって大きな節目となる年だったと思います。

そんな中でも常に、「本当に県経済発展の役に立っているか？」と自問自答する毎日です。

県内企業の皆様とお話ししていると、意識レベルの高さや技術的なポテンシャルの大きさをひしひしと感じます。それだけに我々がメガバンクとしてリソースをフルに活かし、全国の、アジアの、世界の需要地に皆様方をご案内する、そんなお手伝いがしたいと考える毎日です。「県内企業とのビジネスマッチング」「海外進出のサポート」これらのキーワードに、三井住友フィナンシャルグループのリソースのすべてを投入して、今年も栃木県財界の皆様方の飛躍のお手伝いをしていきます。倍旧のご指導を、今年もよろしくお願い申し上げます。



これから激動の時代が始まる

株式会社TKC
名誉会長 飯塚 真玄

新年、明けましておめでとうございます。

弊社は、昨年10月21日に創業50周年の記念式典を催すことができました。ご参加頂いた皆様のご厚情に深く感謝いたします。

私の勤続は49年。振り返ると会社の生命線はいつもイノベーションでしたが、最近の情報通信技術（ICT）の進歩のスピードは想像を超えるものとなっています。

新時代のキーワードは、人工知能（AI）、IoT、スマートシティ、ロボティクス、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、ビッグデータ、フィンテック、ブロックチェーン、サイバーセキュリティなど。これらの新興技術が基盤となって広範囲な「第4次産業革命」が生まれ、まず先進国において産業と雇用の構造を変革してゆくことでしょう。

国際政治の世界では、英国のEU離脱、新米国大統領ドナルド・トランプ氏の登場。そしてシリア情勢を安定させたロシアのプーチン大統領の復活、その上で中国の台頭です。トランプ氏は「アメリカ国益最優先（アメリカ・ファースト）」をスローガンに当選を果たしました。彼は選挙中「アメリカは世界の警察官をやめる」「TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）から離脱する」といつてきました。これを中国はどう捉えるのか。

平成29年は、世界の中でわが国自体が厳しい試練にさらされる年になりそうです。

同友の皆さま、そしてご家族の皆さまのご健勝とご繁栄を心からお祈り申し上げます。



提言する同友会を 目指して

光陽電気工事株式会社
代表取締役社長 **飯村 慎一**

新年おめでとうございます。

東京の（公社）経済同友会は70周年を迎え、昨年11月帝国ホテルで記念式典が開催され、参加してまいりました。小林喜光代表幹事は次の様に述べられました。“同友会は、荒廃した戦後日本の再建をめざして若い経営者83人が「今こそ互いに鞭打ち、脳漿を絞って我が国経済の再建に総力を傾注すべきときではある」という主旨で、1946年に結成されました。これが同友会の原点です。その後、日本経済を支えてきて70周年目を迎えた今年は節目の年。世界がいま変革の時代で、これまでの延長線上に未来はありません。経営者の心の岩盤を砕いて挑戦しましょう。”正に力強いメッセージでした。

「経営者が個人として参加し、先進的で大胆な提言を発することで、独自の存在感を築いた同友会は“財界の前衛的存在”と言われた」（朝日新聞 2016/11/23）。会社の代表の肩書から離れ、業界の利害関係にも縁がなく、個人という立場ですので、時の政権から距離を保つことができ、国を想う率直な政策を是々非々で提言することができたのでした。この先人達の涙ぐましい努力により、戦後の日本経済が大きく発展できたことは大変喜ばしいことであり、その熱い想いは地方でも踏襲すべきものと考えます。

栃木県同友会も東京と同じ公益社団法人ですので、県に対して是々非々の政策を提言し、地域活性化に大いに貢献すべく、活動を展開していきたいと思っておりますので、本年もよろしくお願い申し上げます。



窮せずとも変じる

アクリーグ株式会社
代表取締役 **磯山 左門**

新年あけましておめでとうございます。今年も1年、会員の皆様と少しでも親交を深めさせていただき、共に発展したく念ずるところでございます。

さて、言われて久しい「少子高齢化社会」ですが、対岸の火事の如く捉えていたことが今現実問題として経営者を悩ませております。

その筆頭が「雇用環境の悪化」と思われますし、企業経営は、「雇用なくして将来無し。」であります。今、雇用のミスマッチがあちこちで発生しております。業種・業態を問わず、分業化の進展や新技術・新設備の導入、更にはインターネットによる流通革命等に求人プロセスがマッチングしていないのではないかと、思うところが多々あります。従来の雇用のあり方を抜本的に変えねばならぬ時期に差し掛かっているとも考えております。

弊社ではまず手始めに、雇用の担当部署改革として、総務部が雇用を行うのではなくて、窮する部署が雇用を行うことを昨年末に実行しました。

総務部は他の部署の販促や生産プロセスや品質管理等々を掌握しきれなくなっていることが背景にあります。多くの企業が同一条件にあると思われれます。「窮すれば変じ、変ずれば即ち通ず。」ではなくて、今年は、「窮せずとも変じる。」と、念頭に誓いを新たにしているところでございます。

会員のみなさま、本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



漬物業界の活性化に期待

遠藤食品株式会社
代表取締役会長 **遠藤 榮**

新年明けましておめでとうございます。旧年中は皆様方には大変お世話になりました。ありがとうございました。昨年は4月に熊本・大分地方に大きな地震が発生し、甚大な被害をもたらしました。また8月、9月は相次いで台風が上陸し大きな被害が発生しました。被災者の皆様方には衷心よりお見舞い申し上げますと共に一日も早い復興をお祈り致します。

この所、毎年のように異常気象が続いています。11月は関東でも記録的に早い積雪を観測し驚きました。その日は、栃木県漬物工業協同組合主催の漬物鑑評会の表彰式が行われ記憶に残る雪となりました。栃木県の漬物組合では、漬物鑑評会を昭和42年から実施しています。これも各組合企業の弛まぬ努力と組合の強い結束力、そして関係各位のご支援ご協力のお蔭と改めて御礼申し上げます。また昨年は栃木県知事賞を設け、福岡県知事から直接表彰状を授与して頂く事が出来ました。各組合企業が長きに渡り一致団結し、組合の伝統を継承、発展させる事は素晴らしい事です。明るい話題に昨年、栃木県の漬物出荷額が全国で第二位となりました。漬物業界では、原料確保や適正価格での販売等多くの問題がある一方、和食はユネスコ無形文化遺産に登録されています。日本の食文化への注目度が高まり訪日外国人観光客も増え、国内だけでなく海外のお客様にも和食、漬物が受け入れられるチャンスでもあります。世代を超えて広く受け入れられる新製品を開発し、市場拡大に繋げたいものです。今年も酉年です。「とり」は「とりこむ」と言われ商売などでは縁起の良い干支と聞いています。新しい年が皆様方にとりまして輝かしい年でありますよう祈念し、念頭のご挨拶にさせていただきます。



あけましておめでとうございます

株式会社メディカルグリーン
代表取締役 **大澤 光司**

皆様、新年あけまして、おめでとうございます。また、常日頃より何かとお世話になり、ありがとうございます。

昨年を振り返りますと、平成27年6月に開業いたしました介護部門の新事業「介護付有料老人ホームみどり」(50室)が11月にはお陰様で満員となり、何とか軌道に乗せることが出来ました。これも経済同友会の皆様のお陰と深く感謝しております。

さて、本年は10月に薬局部門として14店目となる新店舗を栃木市内に開業させていただく予定となっておりますので、まずは開業に向けて準備をしっかりと進めていきたいと考えております。

また、今年も酉年という事ですので、明るく、前向きに努力して参る所存です。栃木県経済同友会の活動に関しましては、仕事の関係で参加出来ないことが多く、ご迷惑をおかけしておりますが、本年は積極的に参加していきたいと考えておりますので、会員の皆様には、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



白鷗大学の テイク・オフ

白鷗大学
学長 **奥島 孝康**

ご高承のとおり、世の中はイギリスのEU脱退、トランプ米大統領の出現、韓国パク・クネ大統領の失脚など大混乱が続き、その影響により、日本も先の見えない混迷の年を迎えております。しかし、わが白鷗大学は、昨年は幸いにもスポーツにおける活躍で、校名を日本中にとどろかせる年となりました。

プロ野球のドラフト会議では、タイガース1位指名、ライオンズの2位指名、女子バスケット部の全国大学選手権優勝、男子バスケット部の全日本3位、軟式野球部は東日本大学選手権優勝などその活躍が注目され、全日本女子駅伝では惜しくも入賞は逸しましたが、日本ハムファイターズの栗山監督（特任教授・休職中）は見事に日本一の栄冠を獲得。白鷗大学関係者の人々を沸かせました。また、ラグビーのセブンス日本代表に白鷗ラグビー部の選手が選出されたことも、これからのラグビー部の活躍に期待を抱かせる嬉しいニュースでした。

「たかがスポーツ」と思われるかもしれませんが、「されどスポーツ」。スポーツで全国へわが白鷗の存在感をアピールすることは、大学内の一体感を強め、学問の府としての基盤を一層強めることになると確信しております。白鷗は、ますます元気で頼り甲斐のある学生を養成し、社会の期待に応える大学として、今年もモットーである「PLUS LTRAさらに向こうへ」の大学づくりを進めて参ります。



栃木の話題満載 愛される紙面に

株式会社下野新聞社
代表取締役会長 **観堂 義憲**

明けましておめでとうございます。下野新聞は地域に根差した情報を丹念に取材し、栃木の話題満載の紙面を日々お届けしています。今年も郷土とともに歩み続け、より愛される紙面作りを目指していきます。

昨年は特大の写真を使った大型企画「グラバーへの手紙」を連載。放射性物質の影響にも切り込みながら「マス釣りの聖地」奥日光・中禅寺湖の今昔を紹介しました。ボリュームたっぷりの歴史企画「下野国が生んだ足利氏」も好評を博しています。

スポーツ報道ではリオデジャネイロ五輪に記者を派遣し、県勢の活躍を詳報。作新学院54年ぶりの甲子園優勝では歓喜の瞬間を大々的にお伝えしました。月刊の地域総合スポーツ誌「SPRIDE」も創刊。栃木ブルックスなど4プロのほか、アマチュアスポーツにも光を当てながら幅広い話題を提供しています。

今年は新年からワクチンを取り上げた社会派の大型企画をスタート。本県で開催される大規模イベント「とちぎ技能五輪・アビリンピック2017」や第2回「山の日」記念全国大会についても手厚く報道していきます。「栃木の今」をお伝えすべく、ホームページなどを通したきめ細かな速報も行います。

下野新聞は来年6月で創刊140周年を迎えます。これまで支えていただいた県民・読者の皆さまへの感謝のしるしとして、さまざまな記念事業を準備中ですのでご期待ください。



「更なる価値」を お客様・世の中へ

株式会社ドコモCS栃木支店
支店長 **小林 宏**

新年あけましておめでとうございます。
2016年は総務省によるスマートフォン販売に関するガイドライン策定により移動通信業界の販売状況が大きく変わりました。そのような状況の中、一昨年開始したドコモ光が全国で約300万契約まで成長し、更にはクレジットカードのdカードが1700万契約を越える程になりました。また、dカードについては最新のiPhone等でおサイフケイタイ機能がご利用いただけるようになりました。ネットワークにおいてもプレミアム4Gのエリア拡大が順調に進み、県内でも最大300Mbps以上のエリアを拡大中です。そのように様々な事業を成長させられた年だったと考えます。

今年は、引き続き各事業の更なる成長を図るためにも、より一層お客様に各サービスの楽しさ・便利さ・安心さをしっかりとご提案させて頂きご理解頂くとともに、更にご利用頂くべく努力する年としたいと考えています。そのために、ご利用方法をお知らせする体験会や説明会の充実などを図ります。また、法人のお客様には、BtoBtoCの取り組みである「+d」を更に進めます。栃木支店管内でも農業生産法人様、小中学校様、自治体様等と着実に実績を積み上げております。今後は観光関連にも力を入れていきます。ネットワークに関しては、高スループットエリアの拡大を更に進め、加えてつながる品質も高めてまいります。また、災害対策では、速やかな避難所対応を実現すべく各自治体様との連携強化や減災のための設備強化を進めます。もちろん、スマホ・ケイタイ安全教室も積極的に実施します。

今年も皆さまの変わらぬご支援・ご愛顧を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



更なる“地域密着型 スーパーマーケット”を 目指して

株式会社ヤオハン
代表取締役社長 **財田 忠典**

新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては穏やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は未来経営研究会・事務局の皆様に変にお世話になり、ありがとうございました。本年も引き続きご指導を宜しくお願い申し上げます。

さて、私達の小売業を取り巻く環境は、益々厳しさを増しております。相変わらず激しい出店競争、デフレから脱却出来ない価格競争、更なる慢性的な人員不足と賃金のアップ、毎年続く天候不順、不透明なT P P問題等、課題は山積しております。

その中、弊社は今期のスローガン「“店はおお客様の為にある!!” 異体同心で、もっとつながり、競合店に勝つ抜く!!」の下、栃木市創業の唯一のスーパーマーケットとして、コンプライアンス（法令遵守）を徹底して、安心・安全で新鮮な商品をより安く提供し続ける「食のライフライン」となり、地域のお客様に愛され支持されるよう「更なる地域密着型のスーパーマーケット」を目指し、地域社会に貢献してまいります。

また、社内ではE S（Employ Satisfaction＝従業員満足）の継続的向上を実現し、今まで通り、よく集まりよく話し合っ“ほう（報告）・れん（連絡）・そう（相談）”が常に実践出来る「風通しの良い会社」を構築致します。

最後に本年の皆様のご多幸とご繁栄を祈念し、弊社へのご指導ご支援を宜しく願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



印刷による未来創造

株式会社ダイサン
代表取締役 齋藤 慎一

いわゆるITという言葉が出始めて何年の月日が経ちましたでしょうか。それ以来IT技術は、ICT、IOT、AIなどに代表されるように猛スピードで進化を続けています。将来の日本経済においても、国内市場の縮小化が懸念されるなど楽観視できない状況です。

栃木県の印刷業界に目を転じますと昨年度の栃木県の印刷出荷額は、隣県である群馬県や茨城県の半分にも届かない不甲斐ない状況が続いております。都心からのアクセスが良いことを理由に他県へ市場を奪われていることが数字からも顕著に見て取れます。

弊社は、印刷における栃木県のリーディングカンパニーとして、この状況を早期に打開することが重要だと常々考えています。業界内で疲弊しながら争うことから脱却し、県内の会社がお互いの得意分野を活かしながら連携して成長できる環境づくりを進めることが、栃木県の印刷業界の発展と活性化につながるものと考えております。

今年目標の一つとして、弊社では創業の理念たる「すべてはお客様のために。」を軸に何が出来るかを真剣に追求していきたいと考えています。お客様の利益に繋がる提案をしていかなければ社業の発展はありません。単体としてだけでなく、印刷業界全体の存在意義を賭け、付加価値の高い提案を継続してまいりたいと考えております。一步一步、着実に前へ進んで行けるよう精進して参りますので、本年もご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



新年の抱負

株式会社東武宇都宮百貨店
代表取締役社長 佐瀬 敦

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、よき新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。さて、昨年はリオ五輪や広島東洋カープのリーグ優勝などスポーツ界においては大きな盛り上がりがありました。百貨店業におきましては、都心店でのインバウンド消費にかけりが見え、地方店の閉店発表が相次ぐなど、厳しい状況が続いております。

こうした中、当社では、昨年9月に「新しい楽しい『わくわく百貨店』はじめます」をテーマに、宇都宮店の大型リモデルを21年ぶりに行いました。都心でも人気の新規ブランドの導入や、先行して新設した『キッズスクエア』が好評を得ており、新たに当店をご利用いただくお客様が数多く見受けられます。今年は、こうして新たにご来店いただいたお客様にもご満足いただける品揃えを行うと共に、“わくわく”する企画をより充実させ、東武ファンを更に増やして参りたいと考えております。

グループの中核企業である東武鉄道は、県内の観光活力創出に向けて数々のプロジェクトを始動させています。当社も東武グループの一員として、宇都宮・大田原・栃木の県内3店舗で地域に密着し、地域の皆様からより支持される百貨店となるよう、良質な商品とサービスに加え、安心・安全を更に追求いたします。そして、県内全域のお客様のより豊かな生活に貢献できるよう、新しい情報や提案を発信して参りたいと考えております。今年も皆様のなご一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。



地域立大学を 目指して

足利工業大学
学 長 莊司 和男

本学は、組立加工型産業が多く立地する北関東工業地帯の中央に位置しています。加えて、本学への入学者の多くは、工学部、看護学部とも北関東出身者であり、工学部の卒業生の約8割が北関東に就職しています。また、平成30年3月に初めて卒業生を送り出す看護学部の学生の多くも地元の北関東への就職が予想されます。以上のことより、本学は教育理念である「和」の精神の基に地域社会に認められる“地域立大学”を目指すべきと考えています。

本学は、日本語教育振興協会が主催している「日本留学アワーズ」の理工系部門での大賞を3年連続で受賞しました。「留学生担当だけでなく、大学全体で留学生を歓迎し、地域と一体となって育てていこうという意識が感じられる」ところが高く評価されました。本学は地方の小さな大学であり、教員と学生との距離が近く、face to faceの教育がし易いことが挙げられますが、最も大きなことは地域社会の皆さんが留学生を支援してくれていることであり、このような学生と教員そして地域との距離感の近さが地方大学の良さと考えています。現在、各分野でグローバル化が問われていますが、地方におけるグローバル化も非常に重要と考えています。

本学は、一昨年、足利市、足利商工会議所、足利日本赤十字病院と包括連携協定を締結しました。更に昨年は、群馬の教育機関と「りょうもうアライアンス協定」を締結しました。大学コンソーシアムとちぎ、そして上記の諸協定を活かして、地域社会と共に地域に役立つ人材育成を目指します。



今成さねばならない事

株式会社鈴和
代表取締役社長 鈴木 秀明

私が現在取り組んでいるのは、会社の承継問題です。幸い子供たちが仕事を継いでくれています。まだまだ経験不足で会社を引き継ぐのにはもう少しの時間が必要です。本人の自覚はもちろんのこと、株の相続問題、税務上の課題、そして何よりもお客様からの信頼を繋いで行くことが第一です。

社内でも課題が山積しています。特にビルメンテナンス業は労働集約型産業で、昨今は人手不足で汲々としています。税制改革の行方が気になるところです。

ところで、私が今最も気がかりなのは国の行く末です。今はポピュリズム真っ盛りで、選挙となれば如何に人々の関心を引き付けるかが勝敗のカギを握ります。本質を突いた議論は避けられる傾向にあるようです。しかし、個々の要求で国が弱体化したらどうなるのでしょうか。他国からの支援は期待できません。そうなれば、会社への影響も避けられないでしょう。教育問題、少子化問題、隣国関係問題等心配の種は尽きません。

私は年末に東京で2つの集会に参加しました。「放送法順守を求める視聴者の会」と「歴史認識問題研究会」です。いずれも国を憂えるメンバーがその問題に真剣に向き合っている会です。今こそ経営者が国の直面する現実から目を背けることなく、将来に渡り子供たちが誇りを持てる国造りに立ち上がらなければならないと思います。

今年もよろしく願いいたします。



RADIO BERRYから 「とちぎの旬」を皆様へ!

株式会社エフエム栃木
代表取締役社長 **関根 房三**

明けましておめでとうございます。

今年、エフエム栃木（RADIO BERRY）は、開局から24年目を迎えます。偏に皆様に愛し育てていただいたお陰であり、改めて厚く御礼申し上げます。

弊社はこれまでも、常に「地域のFMラジオ局」として、地元栃木県の情報や音楽、文化、流行の発信に努めてきたところですが、今年も引き続き、地域の皆様と共に歩み続けて参ります。朝の「B-UP!」や夕方の「B・E・A・T」をはじめとするお洒落で楽しい番組を通じて、RADIO BERRYのパーソナリティ達が多くのごゲストや県民の皆様と共に、毎日「とちぎの旬（しゅん）」な情報をお届けするとともに、本県を代表する野外音楽フェスとして定着して参りました「ベリテンライブ」の開催など、本県音楽文化の創造、発信にも積極的に努めて参ります。

また、少子高齢化と人口減少が急速かつ同時に進む中で、「地方創生」への取組が一層重要となっています。情報発信のプロであるFMラジオ局として、栃木県の更なる活性化に向け、様々な形で「とちぎの地方創生」を応援していきたいと考えています。

今年も西年。RADIO BERRYは、更なる飛躍を目指します。「音だけの世界」であるラジオだからこそ、多くの可能性がまだまだ秘められています。進化するラジオの魅力をたっぷりお届けし、今年もまた、いつでも、どこでも皆様に「選ばれ」、そして皆様の「お役に立つ」FMラジオ局であり続けたいと思います。

本年もRADIO BERRYをどうぞよろしくお祝い申し上げます。



「災害に強い とちぎづくり」 のお手伝い

東京海上日動火災保険株式会社
理事 栃木支店長 **多賀 信彦**

新年あけましておめでとうございます。

まずは仕事柄、今年は自然災害等の被害がない年であることを願っております。

私たちは、「災害に強いとちぎづくり」実現のお手伝いとして、2015年1月に栃木県庁様・商工3団体様と提携して以来、BCP（災害時事業継続計画）策定を無料でご支援してきております。

数々の企業様のお手伝いをさせて頂く中で、地震等の災害時に「初期対応をどうすべきか」「自分たちの継続すべき中核事業は何か」「それを継続させるために何をすべきか」等々、多くの企業様が真剣にご論議され、対策を決めておられます。

もしもの時に備えて、お客様ひいては栃木県・国内経済等に混乱が生じないように、準備と工夫を地道に重ねておられます。本当に素晴らしいことと存じます。

特に、昨年の熊本地震以降、自らの事業を守っていこうとする意識は格段に強くなられたように感じます。

私たちは、こうしたご支援をはじめとした「事前の安心（＝防災・減災）」と「事後の安心（＝漏れのない保険提案＋スピーディーで適正な保険金支払い）」をきちんとお届けしなければと、意を新たにする次第です。

今年も、お客様が「何かに備えたい、何かあったら真っ先に相談したい」と思って頂ける身近な栃木支店を目指して参りますので、よろしくお祝い申し上げます。



新年の抱負

滝沢ハム株式会社
取締役社長 **瀧澤 太郎**

新年明けましておめでとうございます。昨年の食肉加工業界を取り巻く環境は、ハム・ソーセージの消費が低迷する中、企業間の競争が激化し大変厳しい環境の一年となりました。

弊社は来年で創業100周年を迎えることとなりました。これもみなさまの応援があったことです。本当にありがとうございます。

食肉加工業界での商いは非常にタイトなものになってまいりました。お取引先様や消費者からは、安心・安全、コンプライアンスやガバナンスなど企業の姿勢や考え方が厳しく問われています。

創立100周年を迎えるに当たり、今年は弊社にとって飛躍の年としたいと思います。そのためには、チームワークを強固なものにするため、社員一人一人の意識レベルを上げていく必要があります。社員の意識レベル、商品力等会社全体としてのレベルアップを図り、地域に貢献できる企業にしたいと考えております。

また、その一端として、昨年は西日本エリアでの取引を拡大いたしました。ご好評をいただいておりますハンバーグ等の惣菜商品や主幹商品のハム・ソーセージにも力を入れ、また、さらに積極的に新商品の開発に力をいれてまいります。

会員皆様のご健勝と益々のご発展をお祈り申し上げますとともに、本年も倍旧のご指導、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



新年抱負

レオン自動機株式会社
代表取締役社長 **田代 康憲**

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、世界経済を牽引する米国の大統領選挙で歴史最大の衝撃が走り、また韓国の大統領辞任に伴う政情不安、ブレグジットショックをはじめとする欧州の金融危機問題など、世界経済の先行き不透明感が高まった一年でありました。今年も、トランプ次期大統領の掲げるインフラ投資、大規模減税政策による米景気拡大への期待から、世界経済は緩やかな回復が期待されますが、欧州連合で相次ぐ国政選挙でのEU懐疑派躍進など波乱の芽は多く、高揚感の先に好材料とリスクが混在している状況であります。また国内経済においても、回復感なき緩慢な成長とさまざまな二極化の進行など、問題が山積しております。

新たな年を迎え、多くの不確実性を抱える内外の経済情勢がどう動き出すのか懸念されますが、ものづくり企業として経済の活性化を下支えできるよう、社員一同、気持ちを新たに邁進してまいります。

弊社が市場とする国内食品産業業界では、少子高齢化および人口減少による食料消費の低迷に加え、担い手不足が深刻化しております。引き続き、技術力、現場力の強化によるさらなる技術革新を図り、お客さまのお役に立ち、食品産業の発展、食文化の継承発展に寄与できるよう取り組んでまいりますので、本年もご指導ご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。

末筆ながら、会員企業の皆さま方のご活躍ご健勝をお祈り申し上げます。



クールジャパンを 栃木から

株式会社アイディ
代表取締役 **田村 晃**

新年、明けましておめでとうございます。アイディは、DTPデザイン事業に加え、Web事業、マンガ広告などコンテンツ制作を生業とする会社です。近年、デジタル技術を使って静止画をアニメーションのように動かし、これを企業PRや商品説明などに応用する新しい広告づくりにチャレンジしています。

最近の広告業界では、動画広告の急速な普及に注目が集まっています。お気づきの方も多いかと思いますが、フェイスブックやインターネットポータルサイトの画面上で動画が自動再生される広告が急速に増加しています。これは世界的な傾向で、日本においてもその市場は数年で3倍～5倍になるとも言われています。

日本は少子・高齢化がますます進展し、それに伴うマーケットの縮小が危惧されています。しかし、インターネットで世界と簡単にアクセスできる環境下では、地域の壁を越えて需要を創造することが容易になり、世界のマーケットでビジネス展開するチャンスが広がっていく時代だと考えています。

弊社では、日本独自のマンガ文化を活用し、アニメーションとは違った技法で動画制作に取り組んでおり、今年は栃木県内のPR動画をはじめ、CMや長編アニメの制作にも挑戦していきたいと考えています。

クールジャパンを栃木から実現していけるよう、そして栃木県内の新たな需要の創造と雇用の創出に貢献できるよう、精進して参りたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い致します。



飛躍に向けて

富士重工業株式会社
専務執行役員
カンパニープレジデント **永野 尚**

新しい年を迎え謹んでお慶び申し上げます。昨年は、東京ビッグサイトにて2016年国際航空宇宙展が4年ぶりに開催され、4日間で44,000人もの来場者をお迎えして成功裡に終えることができましたが、日本航空宇宙工業会の会長会社としても大いに面目を保つことができました。それだけ航空宇宙産業に対する世の関心が高まった表れだと思います。

そのような中、弊社はボーイング777の後継機となる777X及び陸上自衛隊向けの新多用途ヘリコプターUH-Xなどの新規事業立上げに取り組んでおり、また既存事業の増産準備も鋭意進めております。

そして、中島飛行機創立100周年となる今年、社名が株式会社SUBARUに変わります(4月1日)が、航空宇宙カンパニーもこれからはスバルブランドの下にグローバルな飛躍を目指していくこととなります。

しかし、これからの成長は、弊社単独の力で乗り切れるものではありません。協力企業を含めた取引先企業の皆様のご協力・ご支援が従前以上に不可欠となります。高い安全性と品質を求められる航空機ですから、まずは「安全と品質」を大前提とし、その上でお客様に満足いただける日程とコストを実現して参りたいと思いますので、皆様方からのご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年が皆様にとって幸多き年となりますよう祈念申し上げます。



新年の御挨拶

日産自動車(株)
理事 栃木工場長 **橋本 修**

新年あけましておめでとうございます。

昨年、自動運転を搭載しR J Cカーオブザイヤーを受賞した新型セレナとまったく新たな発想の電動車ノートを発表しご好評を頂いておりますが、弊社は今年もますます知能化と電動化を加速させて参ります。

さて、当栃木工場は創立50周年を来年に控え、皆様に信頼される車造りを進化させ、よりブランド力を上げるために、技を磨いて組織力のアップに努めてゆきます。

また、昨年は栃木地元企業が部品発注の機会を得るイベントを県とタイアップして実施することができました。

これは、今年も継続活動として実施し、地域の活性化に貢献したいと考えています。地域の皆様との共生活動も重視し、しらさぎ祭りやマラソン大会、福祉事業の皆様との活動も継続して参ります。

最後に栃木経済同友会の皆様の益々のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。



「祈り千羽鶴」 刊行雑感

医療法人社団大衛会比企病院
常務理事 **比企 洋子**

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願いします。

昨年の暮れに、長年少しずつ取り組んでいましたタペストリーの作品を集めて写真集を刊行することができました。東日本大震災の復興の息吹と犠牲者の鎮魂を願って、また、先の戦争の戦没者の方々の御霊の安らかなることを願って、「祈り千羽鶴」としました。

以前からお役に立てることは何かできないかと考えておりましたが、特に震災によって方向が定まり制作への意欲が掻き立てられました。顧みればこの大震災も6年の歳月が過ぎようとしています、各地に避難されている方々のご子息に対する「いじめ」の報道や、生涯帰れない故郷への望郷の思いを聴くたびに切ない思いで胸がいっぱいになります。それでも負けないで前に向かって羽ばたいて欲しい、そんなことを考えながらコツコツと制作にも力が入りました。趣味の古物収集で集めた大正、昭和時代の着物の端切れから絵柄模様等を作品の構想に合わせて切り取り、縫い合わせていきます。この作業をしていると、時の経つのも忘れ夜が更けてしまうこともありました。生まれた作品に目を落とせばまさに我が子を見るような愛おしさや愛惜の思いに駆られます。皆様に批評していただけるような機会を持ちたいと考えておりますが、拙著をお手に取っていただければ幸いです。

本年が皆様にとって良い年になりますようお祈り申し上げます。



新年のご挨拶

足利興業株式会社
取締役社長 **平澤 道彦**

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましてはつつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は4月に熊本地震が発生し、九州地方に甚大な被害をもたらしました。9月には台風が上陸し、各地で避難指示が出るなど大雨による被害が相次ぎました。記憶に新しい関東地方の11月の積雪は統計開始初の記録であり、過去の傾向からは予想できない自然災害が多く発生した年でした。

このような中、保険代理店としての役割はますます重要さを増していると感じています。弊社では、保険事故が発生した際にお客様の立場に立った対応を心掛け、保険金の支払い手続きを迅速かつ適確に行うよう取り組んでまいりました。

めまぐるしく変化する社会環境の下で、今年もご家庭内や企業内で発生する「リスクへの対応」「将来への備え」に最適なプランのご提案とサービスでお応えし、地域の皆様に信頼される会社を目指してまいります。

「酉」は「取り込む」に繋がるといわれておりますので、運氣や情報を取り入れ、会員の皆様にとって実りの多い1年になるようお祈り申し上げます。

本年も会員の皆様のご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



創業70周年 世代交代で新たな飛躍

株式会社フカサワ
代表取締役 **深澤 雄一**

皆様新年明けましてお目出とうございます。あの25年前のバブル崩壊から、それまでの安定期から動乱期に入り、8年前のリーマンショックで底を打った日本経済は、着実な回復となっています。それは、包装資材をはじめ工場向けの各種資材を取り扱う我社の実績からも数年来国外へシフトしていた企業が国内回帰が見られる。

そのような中、創業70周年の節目の年となる。私の父が旧南那須町で練炭を練る荒縄を製造し、20年後、包装資材の販売に事業転換をして今日に至っています。私が社長を引き継いだ時がバブル崩壊直後で、6店舗であり、当初から店舗展開による増収を目指していた。今、11支店3部門となり、今後とも充実を図っていく方針ですが、あくまで関東1都6県に基盤を置き、お客様のあらゆる要望に応える基本姿勢を貫き、地域密着の営業を進め密度の濃い事業展開をする。

また、この6月で現副社長の長男友志に社長を譲り会長となる。10年間をかけて準備を進め支店長クラスのひとつが新社長と同年代となっている。やはりいきなりトップだけが代るのではなく全体が変わることが重要です。

これから飛躍にあたっては、お客様により商品を提供し喜んで頂く。その事を通して社会に貢献する。更に働く人が幸せにならねばなりません。その結果として利益が付いてくる。先に利益があるのではありません。この信念を確実に引き継いで行きます。



みんなで創ろう 助け合い社会

公益財団法人とちぎYMC A
名誉理事 **船津 祥**

本年4月から介護保険制度が改正され、要支援1・2者に対する事業が各自治体に完全に移管されることになりました。

このことは従来の自治体による制度に加えそれぞれの地域の自治会、社会福祉協会、医師会、企業、ボランティア団体、世話役の人々や地域包括支援センターが連携して取り組まなければならない状況になりました。この推進に当たっては現在県内各市町で一層、二層の協議体と生活支援コーディネーターの選任が少しずつ進みつつありますが、現状は各地域で学習中の状況です。

行政による働きかけに格差があり、現状ごく一部の市町が動き出しているに過ぎません。急速な高齢化で手を打たなければ財政負担が多くなり大変なことになると思います。深刻な状況に差しかかっていることへの認識をもつことが喫緊の課題です。

よってこの事実を行政と共に市民による近隣の助け合いに取り組むチャンス到来と捉えて各地で企業も含めた活動を推進すべきと考えます。小生も宇都宮市内の一地域で「〇〇地区2025年の福祉のまちづくりを考える会」に関わり、自治会、社協、民生委員児童委員、医師、ボランティア、地域包括支援センターなどと6回の勉強会を行い、本年更に回を重ね4月からいよいよ協議体づくりと生活支援コーディネーター選出の段階に入る予定です。各地域でこの課題を理解し、早期に体制づくりが進むことを望みます。



新年の抱負

東京ガス(株)宇都宮支社
支社長 **堀内 忠**

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年を振り返りますと、茨城と栃木を結ぶ高圧ガスパイプラインの運用を開始することで、栃木県のガスの供給安定性を大きく向上させ、また清原工業団地内にエネルギーセンターの建設が決定する等、インフラの拡充・整備や分散型エネルギーの推進、省エネ・省CO₂の取り組みを着実に進める等地域やお客さまの利益の増大と様々な課題の解決に向けた取り組みを進めてまいりました。また、電力小売り全面自由化によって東京ガスは第二の創業とも言うべき電力小売事業へ参入し、多くのお客さまのご期待に応えるよう努めております。

今年はガス小売全面自由化もスタートとなります。創業以来、時代の変化と共にお客さまのニーズにお応えし、事業者の皆さまとは快適な職場づくりや効率的なモノづくりに一緒になって汗を掻き、ご支援させていただきました。これからも常にお客さま・地域のことを思い、直向きに挑戦し続け、ガス・電力・付加価値サービスを提供し、お客さまから期待され選ばれ続ける総合エネルギー企業を目指します。そして栃木県の発展に貢献できるよう努めてまいります。同時にエネルギー事業者の責務としてお客さま・地域の安心・安全を確保し、地域社会から一層の信頼をいただけるよう東京ガスグループ一丸となって取り組んでまいります。

結びに皆さまの今年一年のご健勝とご多幸を祈念すると共に、弊社への変わらぬご指導・ご支援のほどお願い申し上げます、新年の抱負とさせていただきます。



新年の抱負

S M B C 日興証券株式会社
宇都宮支店長 **増田 直樹**

皆さま、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。嵐の様な2016年も終わり2017年は平穏に過ぎて欲しいと願うばかりですが、如何なものでしょう。相場格言の中に変化こそチャンスとありますが、確かにじっと目を凝らしていると大きな変動の中に、ものすごい収益機会が訪れるものですので、内心は嵐を待ち望んでいるのかもしれません。

さて弊社が宇都宮にて仕事をさせていただくようになってはや43年になりました。昭和48年の11月からになります。高度経済成長期の後半から昭和末期のバブル経済、そしてその崩壊。金融恐慌からの長期デフレ時代、ご当地においてもその影響は、甚大なものがあつたと伺っています。私ども証券会社の本来の使命からして、栃木県・地域経済・県民の皆様に対してどれほどのことができたのかを改めて考えさせていただき、今年も真に地域に貢献し、皆さま方のお役にたてるような企業になりたいと考えています。私どもが扱うものは変動商品であり、将来の利益や利回りを確定できないものが殆どです。お役にたつためにどうしたらよいのかを具体的に考えますと、真にお客様のことを理解し、ご資金の性格、ご理解できる範囲を正確に捉え、リスクを最小限に抑えたご提案、並びに日本最強の銀行・証券協働会社として、提供できるサービスを極大化することにあると考えます。日本経済・投資の世界はまだまだ明るいでしょう!!

改めて、本年もよろしくお願いいたします。



新年の抱負

株式会社足利銀行
取締役頭取 **松下 正直**

新年、あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中に賜りましたご厚誼に対し、心より御礼申し上げます。

さて、昨年10月1日に株式会社常陽銀行と株式会社足利ホールディングスの経営統合により「株式会社めぶきフィナンシャルグループ」が発足し、株式会社常陽銀行と弊行は、めぶきフィナンシャルグループの子会社として新たな歴史を踏み出しました。新金融グループ発足に際しましては、皆さまの一方ならぬご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

新たな金融グループは、経営理念に「質の高い総合金融サービスの提供を通じ、地域とともに、ゆたかな未来を創り続けます。」を掲げ、これまで両行が培ってまいりましたお客様、地域とのリレーションを維持・深化させ、広域ネットワークを活用し、地域振興・創生のけん引役となるよう鋭意取り組んでまいります。グループの創意を結集し、質の高い総合金融サービスの提供により地域の持続的成長に貢献する金融グループとして邁進する所存でございますので昨年同様、本年も引き続きのご支援・ご愛顧を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



今年こそJ2復帰

株式会社栃木サッカークラブ
取締役相談役 **水沼富美男**

会員みなさま、新年おめでとうございます。今年もみなさまと共に県内経済の発展に寄与できる活動に取り組んでいきたいと決意を新たにしています。

栃木サッカークラブ（栃木SC）は昨シーズン、1年でJ2復帰を公約して戦い抜きましたが、あと半歩のところまで迫りながら約束を果たせませんでした。応援、ご支援をいただきました会員の皆様方にはお詫びとともに感謝と御礼を申し上げます。しかし、2位の成績は今季の昇格に大きな期待を繋ぐ成績でした。栃木SCの今年の目標は明確で、引き続きJ2復帰への挑戦です。2年でJ2復帰を果たし県民の皆様の期待にご支援に応える覚悟です。

栃木SCは「子供たちに夢と感動を」「地域とともに」を理念に掲げています。プロチームの選手たちによるサッカーの醍醐味、感動はもとより、サッカー教室や下部組織を展開し子供たちの育成にも力を傾注しております。今年プロサッカーチームの持つ資源により磨きをかけ、県民の公共財としての存在をさらに高めていきたいと考えています。

折しも地方創生が国家的課題になっており、県政においても「とちぎ創生」の取り組みが最重点施策になっています。栃木SCはプロスポーツの資源と活力を生かしバスケットボール、自転車、アイスホッケーのプロチームと連携を深めながら「とちぎ創生」に一層の役割を果たしてまいります。

今年の干支「酉」の縁起は商売繁盛。伴にますます繁盛する素晴らしい1年となることを願っております。



今春よみがえる 国宝「陽明門」

金谷ホテル株式会社
代表取締役社長 **嶺 康夫**

世界遺産に隣接する小杉放菴記念日光美術館。代表的な所蔵作品は《神橋》や《東照宮陽明門》そして《良寛》など。〈のっぺりと師走も知らず今朝の春〉〈よそはでも顔は白いぞ嫁が君〉〈春雨や門松のメゆるみけり〉これらは良寛の新年の句。

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は日光山開山1250年・日光東照宮御鎮座400年の1年でしたが、栃木県経済同友会の多くの会員の皆様に御来見頂き、そしてまた日光金谷ホテル中禅寺金谷ホテルをご利用賜りました。あらためまして暑く御礼申し上げます。

今年の日光は昨年に引続きたいへんに賑やかな年となります。日光東照宮の「平成の大修理」は平成19年から50年計画で開始されたところですが、今春早くも国宝「陽明門」がよみがえります。国際観光年・日光の新時代の幕開けとなります。

また、平成29年は明治150年にあたります。明治6年創業の弊社は5年後に創業150年を迎えることになり、いよいよその準備の始まる年となります。私自身は良寛を勉強してみようと考えています。「良寛禅師奇話」「大愚良寛」「全詩集」「全歌集」「全句集」などを確保いたしました。

今年も相変わらずご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



新年の抱負

東日本電信電話株式会社
理事 栃木支店長 **村田 和也**

新年明けましておめでとうございます。

昨今の情報通信市場は、IoT・ビッグデータ・AIの技術革新に加え、クラウドコンピューティングの進展やスマートフォン・タブレット等Wi-Fi対応端末の浸透等により、従来の枠組みを超えた構造変化が進展しております。

このような変化の中、私どもは事業の軸であった光回線のマーケットが成熟したことにより、事業構造を「ビジネスマーケットのICT化」と「光コラボレーションモデルの推進」へとシフトしてまいりました。昨年は、Wi-Fiやセキュリティ、サポートなどのICTサービスを自治体様・企業様にご案内してまいりましたが、関心の高まりを強く感じることの1つが「サイバーセキュリティ」への対策です。実社会とサイバー空間（デジタルデータ）との相互連関が進む昨今、ICTを安全にお使いいただき、ビジネス活動のお役に立てるよう、本年も「オフィスのICT化」に向けたご提案やサポートを強化してまいりたいと考えております。

また、時代に合わせた変革へ取組む一方、毎日あたりまえに通信が「つながる」安心をお届けすること、災害時においても通信を迅速に確保すること、社会を支え生活を守る重要なインフラとしての役割は変わらず守り続けてまいります。

これらの活動を通じ、地域の皆様にとって身近な総合ICT企業として、また価値あるパートナーとなることを目指してまいりますので、本年も引き続きのご支援・ご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



女性の社会進出の1つとして

有限会社ガロムユウ
代表取締役 **室賀 裕子**

皆様、明けましておめでとうございます。

弊社は、30年近くインテリアデザインの仕事をしています。昨年、私が1期生で卒業しましたインテリアコーディネーターの即戦力を育てる町田ひろ子アカデミーが10数年ぶりに宇都宮校から宇都宮教室に弊社事務所で再スタートしました。2年生になった生徒が、昨年12月18日に、賢く美防災のあるインテリアのプレゼンテーションを行いました。災害の多い昨今、インテリアや女性、コーディネーターの視点から美しく防災ができるインテリアというタイトルで生徒が夏休み明けから調査研究を重ねて企業・卒業生・エンドユーザーの皆様の前でプレゼンテーションを行いました。宇都宮教室では、県産材を使って賢く美防災につながるものを研究しアイデアも披露いたしました。お陰様で、企業の方から求人依頼があり就職希望者が就職につながるきっかけとなり、インテリアコーディネーターとして女性が輝いて仕事ができる事を期待したいと思います。今年の目標は、卒業していく女性たちへプロとして皆様のお役に立てるインテリアコーディネーターになれるよう支援することと次に活躍できる生徒の確保です。インテリアを夢見る方、社会進出をしたい方、色が好き・雑貨が好き・家具が好き・照明が好き・空間を何とかしたい・ショップが好き・カフェが好き・海外のインテリアに憧れる…と始めるきっかけは色々ですが、インテリアの世界は奥が深く楽しいもの。その方たちに、栃木県内で活躍できる生徒を育てそれを伝えていき、住環境が良くなるお手伝いにつながればと一歩ずつ進めていきたいと考えています。

今年もどうぞよろしくお願い致します。



心通う医療・看護・ 介護を目指して

医療法人北斗会宇都宮東病院
常務理事 事務長 **森田 一穂**

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様方におかれましては輝かしい新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

国内経済は長引くデフレの影響で低迷している状況です。日本は世界でも、未曾有の少子高齢社会と言われており、いかにして高齢者の社会保障、医療保険を担うかなど多くの問題が山積しています。少子高齢化は、以前からあった問題でした。しかし最近、この問題が急激にクローズアップされています。その理由は、長期国内の不況、社会保障制度・医療制度が破綻を始めてきたことがその要因と言われています。現在の社会保障の三大支出は「年金」「医療」「福祉」と言われています。これらは年々増加の一途で財政赤字の根源と言われております。経済の成長と人口構成比率が健全なものならば、この制度は問題ないのですが、経済は低迷し、金利も低下しており、社会保障費への収支バランスが崩壊しこのままでは社会保障の堅持が危ぶまれると言われております。こういった環境の中ですが、私どもの法人「北斗会」の一角を担っています「宇都宮シルバーホーム」が、昨年設立25周年を迎えることができました。各方面、関係各位より激励のお言葉を賜りましたこと大変ありがとうございました。私どもは、近年「おもてなしの心」を合言葉に、皆様方へ選ばれ、信頼される病院を目指して全職員一丸となって取り組んでおります。本年も、尚一層、精進していく所存でありますので、引き続き皆様方のご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。



鶏口牛後の 志を持って

有限会社関東実行センター
代表取締役 **山本 久一**

明けましておめでとうございます。

昨年は、リオオリンピックで日本中が希望に湧いた一年でした。

本年も、酉年の特徴『運氣も仕事もいい流れを取り込む明るく希望に満ちた一年』にしたいと思います。

さて、私共(有)関東実行センターは、来期で半世紀である50周年を迎えようとしています。その節目にあって、弊社では3つの取組を今年の柱として、日々、邁進させて頂く所存です。

まず一つ目は、“創業者精神に帰る”という点です。今から約半世紀前、弊社の創業者でもあり、父の山本了照が、いつも大切にしていた「笑顔は最高のサービスである」との言葉に原点回帰させて頂きます。それには、我々が日々接する市民の皆様がいつも笑顔で毎日が過ごせるよう、地域社会への貢献に社員一同、精進させて頂きます。

二つ目は、各自治体の業務の発注体制が、年々、入札制度へと加速していく中、リサイクル型社会への対応推進に加え、業務の特徴を生かした提案を各自治体に対して進めてまいります。

そして三つ目は、社内の業務プロセスとマネジメントシステムを更に統合させて有益なISO推進活動に取り組むことです。

弊社では、これまでにISO27001（情報セキュリティ）、ISO14001（環境）に加え、本年は、夏頃に全世界で同時発行となるISO45001（労働安全衛生）の取得を視野に入れた活動に取り組まさせて頂いております。

本年ご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



20年に向け基礎固め ニュース報道に力

とちぎテレビ
代表取締役社長 **吉澤 文夫**

明けましておめでとうございます。

新年は開局19年目に入ります。節目となる20年に向け、基礎固めを仕上げていく年となります。

昨年を振り返りますと、経済同友会の全面的なご協力を得て実現した「同友酒場」は大変話題となりました。社長さんと支店長さんが縄のれんをくぐって一杯交わしながら栃木談義に花を咲かす。「会社の顔とは違う顔」を楽しみに見た方も多いようです。同友会ならびにご出演いただいた会員の皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

災害報道は放送局の最も重要な仕事です。険しさを増す自然災害にどう対処すべきか。昨春から朝、夕、夜の情報ワイド番組で「防災～あなたを守る～」をお伝えしています。県内の防災、減災の取り組みを永続して追いかけます。速報力も高めなくてはなりません。

大事件・大事故への備えも同様です。昨年の宇都宮城址公園爆発事件では「今、何が起きているのか」をリアルタイムに伝え切れませんでした。速報マインドの醸成と週末の夕方方のニュース番組の新設、機動力アップに向けたスタジオ改修など、手段を尽くして報道の力を上げていきます。

視聴者の皆さんと「とちテレ」を結ぶ「とちテレアプリ」からは投稿写真や映像がたくさん寄せられています。また社内では役職員全員がアプリの投稿訓練を実施。限りある人・機材を全社でカバーする「とちテレウエー」の取り組みが一步ずつ進んでいます。

発信力を高め、視聴者ニーズに応える放送を目指して参ります。ご指導、ご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。



新年のご挨拶

宇都宮証券株式会社
代表取締役 **吉田 稔**

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年におけるわが国経済の状況をみますと、英国のEU離脱の影響や、新興国・資源国経済の不振などで、世界経済の先行き不透明感が高まっており、また、熊本地震による甚大な被害が発生したこともあり、わが国経済を取り巻くリスクが高まりました。しかし、11月の米大統領選において、次期大統領がトランプ氏に決まり、円安が進みマーケットも持ち直してきています。

県内経済の状況は、個人消費は力強さを欠いた状況にあり、また、新興国・資源国経済の脆弱性、英国のEU離脱に係る影響などから、地域経済においても不透明感が高まっております。今年は少しでも改善するような年であってほしいものです。

このような経済情勢の中、私どもの会社は変革の年を迎えようとしております。今まで以上に、より地域の皆様方へトータル的な金融サービスの提供を図り、地域経済活性化に貢献することで、より一層の信頼を獲得出来る様、邁進してまいります。

この新しい年が佳き年となるよう心より祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



変化こそチャンス

株式会社 カナメ
取締役会長 **渡部 渉**

皆さん新年おめでとうございます。

英国のブレグジットやトランプ大統領誕生など大変な激動の幕開けです。

オバマ大統領はトランプのTPPからの脱退の発言を受けTPPの断念を発表、日本は推進の構えですが米国抜きのTPPは難しいのではと思料します。多くの国が貿易を通じて交流を深める事が結果的に平和に寄与すると思っていたので残念です。

EUはギリシャ問題や英国の離脱など揺らいでいますが欧州統合の理念は自由、民主主義、平和、法の支配、人権の尊重です。ユーロ紙幣にも表れており表面には窓や門、裏面には橋が描かれている。これは窓や門が「開かれたEU」と云う理念を表し橋が人と人とのつながりを象徴しています。2012年EUはノーベル平和賞を受賞しています。

この欧州統合の理念は理想過ぎるとの意見もありますが人間は邪悪を排し理想を追求することが人間だと思うのです。

日本の素晴らしい言葉である「勿体ない」運動を世界に広めたケニアのワンガリーマータイさんはノーベル平和賞受賞しています。その「勿体ない」がシェアリングエコノミービジネスへと大きく花開いています。配車サービスのUVER（創業6年で時価評価6兆円）や民泊サービスのAirbnb（創業8年で時価評価3兆円）など使用していない時の車、空いている部屋などを紹介するビジネスです。今年は大変動する年になりますが私達企業人は変化はチャンスと捉え挑戦していく所存です。ご支援のほど宜しくお願い致します。



栃木県経済同友会キャラクター「とちこ」

定例記者会見



日 時：平成29年1月6日(金)
16：10～16：35
会 場：ホテル東日本宇都宮

新年にあたり、平成29年における公益社団法人栃木県経済同友会の活動概要について記者会見を行った。

【記者発表趣旨】

ニッポン一億総活躍プランが閣議決定され、成長と分配の好循環のメカニズムが提示され、GDP 600兆円を達成することにより、子育てや社会保障を強化し、希望出生率1.8、介護離職ゼロを達成するという「究極の成長戦略」を定め、その目標実現のため働き方改革と生産性向上に取り組んで行く必要があり、具体化を進めるため「働き方改革実現会議」が設けられ、同一労働同一賃金など9項目の実行計画の策定等の審議がなされているが、この動きを注視していきたい。

栃木県では昨年2月に、県政の基本指針となる栃木県重点戦略「とちぎ元気プラン」を策定したが、策定に当たっては当会会員も委員として参画した。実行に当たってはできる

限り協力をしていきたい。

「とちぎの創生」を共通のテーマに当会の委員会は、約2年間の調査研究期間のまとめの時期となるが、いくつかの委員会で栃木県知事をはじめ各関係機関の代表者に提言を予定している。提言については、内容が確定し次第、資料提供するが、具体化されてこそ提言であるので、提言が提言で終わることなく、具体的な施策に繋がるよう、協力できるところは協力をしていきたい。

例えば、人口減少対策等、提言内容と方向性が一致する県の施策等に関して、一定の支援を行うことを検討している。

4月から新委員長の下で始まる各委員会の調査研究活動については新テーマも決まり、とちぎの創生のため「栃木県の活性化」や「人づくり」という2つの要素を踏まえ様々な角度から調査・研究を進めていきたい。

来年実施する創立30周年記念事業に関して、これまでの周年事業に加え、特に今回は全国経済同友会セミナーを誘致して開催することとした。この事業は、日本の発展を支え、牽引してきた企業の経営者の方々等が栃木に一堂に会し、さらなる日本の発展について議論を行う一大イベントである。加えて本県の魅力を国内外に発信できる事業である。

折に触れ準備状況等を、情報提供していくので気運の醸成に力添えをお願いしたい。



平成29年新年例会



日 時：平成29年1月6日(金)
16：40～19：30

会 場：宇都宮東武ホテルグランデ

それぞれの調査研究テーマ及び委員長の発表があった。

平成29年の新年例会がホテル東日本宇都宮で開催され、約120名の会員が参加した。

【年頭所感の発表】

小林筆頭代表理事から年頭所感の発表があった。

「とちぎの創生」を共通テーマに活動している各委員会は調査研究のまとめの時期となり、いくつかの委員会で提言をしていく。また、4月からは新委員長の下で「栃木県の活性化」や「人づくり」の要素を踏まえた新しいテーマで調査研究を進めていく。

来年実施する創立30周年記念事業は、これまでの周年事業に加え全国経済同友会セミナーを誘致し開催する。万全の準備をしていくため、会員の力を結集して臨むので協力をお願いしたい、との話があった。

【平成29・30年度の委員会テーマ 及び新委員長の発表】

中津代表理事から、7委員会・2研究会の



【会員褒章受章者への記念品贈呈】

平成28年秋の褒章において瑞宝中綬章の栄に浴された名誉会員の菅野長右エ門氏（宇都宮大学元学長名誉教授）へ記念品贈呈が行われた。



【福田栃木県知事講演会】

昨年秋の知事選挙において、見事4期目の当選を果たした福田富一栃木県知事に『選ばれるとちぎへ「all とちぎ」で』と題して講演をいただいた。

(講演要旨)

政策集「とみかず元気宣言2016」には新規事業70項目、継続事業76項目を示させてもらった。新規事業はこれから組み上げていくが、中期的の課題も含め、当面の課題には対応していけると考えており、これらの事業により地方創生を実現していきたい。

昨年12月に、県産業労働観光部次長が、本県と姉妹提携しており、建州200周年を迎えた米国インディアナ州に行き、マイク・ペンス知事を訪ねた。同知事とは私も何度かお会いしているが、親日家であるので、副大統領になられてからも期待したい。

同じ12月に、県総合政策部次長がJOCとともに、東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致のために、ハンガリーを訪問した。本県では、世界陸上競技選手権北京大会で同国が事前キャンプを行った実績があるなど、同国のキャンプ地として本県が選ばれる可能性があると思っている。本県がキャンプ地となれば同国の選手に、県内各地の施設を利用してもらえるよう対応していきたい。価値観の多様化が進んでいる。行政は、県民のニーズをキャッチして、タイムリーな施策を行っていくことが求められている。それが「選ばれるとちぎ」につながっていくので、職員一人ひとりが多様な価値観にどう対応するかということを考えて仕事をするよう、仕事始めに職員に対し訓示した。

一部の職業では将来、AIの普及などにより、仕事がなくなるという話もある。行政の仕事は、人が相手になるので、なくなるということはないが、効率化を図りながら、これからも取り組んでいきたい。そして、政策集に掲げた内容は、任期中に実行できるよう、

取り組んでいきたい。

昨年は、本県出身の人たちが大いに活躍された。リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックでの活躍、夏の全国高等学校野球選手権大会での作新学院高校の優勝があった。また、船村徹氏が文化勲章を受章された。こうしたこととともに、「烏山の山あげ行事」や「鹿沼今宮神社の屋台行事」のユネスコ無形文化遺産への登録などあり、数多くの栃木県の話題を全国に振りまくことができた。

今月の中旬過ぎから、「平成28年度全国高等学校総合体育大会第66回全国高等学校スケート競技・アイスホッケー競技選手権大会」が日光市と宇都宮市で開催され、全国から高校生がやってくる。また、3月末から4月初めの3日間、県内全域を舞台としたサイクルロードレースである、「ツール・ド・とちぎ」の第1回大会が行われる。国際レースの認定も取り、いい選手を外国から招いて行うので、全国に情報発信していきたい。さらに、8月には、那須町で「第2回『山の日』記念全国大会」を開催する。11月に開催する「とちぎ技能五輪・アビリンピック2017」では、一人でも多くの方に出場していただき、全国大会に出場したということを誇りに感じてもらえるようにしていきたい。このように、今年は大きなイベントがたくさんあるので、一つひとつを大切にしながら情報発信を国内外にし、ブランド力の強化につなげていきたい。

